

食と緑の基本計画2025

～食と緑が支える豊かな「あいち」をめざして～

(案)

【概要版】

2020年11月
愛知県

1 食と緑の基本計画 2025 について

■ 趣 旨

「食と緑が支える県民の暮らし条例」第7条に基づき知事が定める、食と緑に関する県の施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な方針として策定します。

■ 性 格

基本計画は、県が重点的に取り組むべき政策を示した「次期あいちビジョン」の方向性に沿った計画であり、国の戦略、計画なども踏まえたものです。

■ 計画期間

期間は、2021年度からの5年間とし、2025年度を目標年度とします。

2 食と緑に関わる現状と“めざす姿”

■ 現状と課題

人口減少局面における担い手の確保

革新的な新技術の社会実装による生産性向上

経済のグローバル化に対抗しうる競争力の強化

脅威を増す感染症への対策

SDGs達成に向けた持続性の高い生産を推進

県産農林水産物の消費拡大

農林水産業への理解促進

地球温暖化等の気候変動への適応

農山漁村の維持・活性化に向けた“関係人口”の創出

■ 今後5年間で特に重視すべき視点

▷視点1 人材の確保と生産性の向上

▷視点2 持続可能な農林水産業・農山漁村の実現

視点を重視した施策を展開

■ 2025年にめざす姿と目標

緊急プロジェクト

新型コロナウイルス対策

	めざす姿	目 標 ()内は現状値	重点 プロジェクト	施策体系
生産現場	持続的に発展する 農林水産業の実現	農業産出額 3,150億円 (3,115億円) 2014-2018平均	農業の 生産力強化	生産の柱
		県産木材生産量 18.0万m ³ (13.9万m ³) 2019年	林業の 生産力強化	
		漁業産出額 410億円 (390億円) 2014-2018平均	水産業の 生産力強化	
暮らし	農林水産の恵みを 共有する社会の実現	県産農林水産物等を優先して購入したい 県民の割合 25.0% (15.4%) 2020年	需要拡大・ 魅力向上	暮らしの柱
		農山村地域の防災・減災面積 5年間で6,500ha	地域の 防災・減災	

3 施策体系と主な取組

“めざす姿”の実現に向けて、産業（生産）施策と地域（暮らし）施策を車の両輪とし、2本柱の下でバランスよく取り組みます。

食と緑が支える
県民の豊かな暮らし

《柱1：生産の柱》持続的に発展する農林水産業の実現

(1) 意欲ある人材の確保・育成

- ア 農業を支える多様な人材の確保・育成
- イ 林業を支える担い手の確保・育成
- ウ 水産業を支える担い手の確保・育成

(2) 生産性の高い農林水産業の基盤を作る取組の充実

- ア 新技術・新品種の開発と普及
- イ 農林水産業を支える生産基盤の整備と環境づくり
- ウ 産地の体制や生産設備の強化
- エ 食の安全・安心の確保

(3) 新たな需要を創造し持続可能な農林水産業の実現

- ア マーケット・インの視点に立った生産・流通の改善
- イ 農林水産物等に関する国内外での需要の開拓
- ウ 環境との調和に配慮した持続可能な農林水産業

《柱2：暮らしの柱》農林水産の恵みを共有する社会の実現

(1) 農林水産業を理解し身近に感じる活動の推進

- ア 県産農林水産物への理解を深める取組の推進
- イ あいちの農林漁業を応援・体験し参加する機会の提供
- ウ 幅広い世代に対する食育の推進

(2) 災害に強く安全で快適な環境の確保

- ア 農山漁村の強靱化に向けた防災・減災対策
- イ 快適な生活環境の確保
- ウ 暮らしを支える森林・農地・漁場の整備・保全

(3) 地域住民や関係人口によって支えられる活力ある農山漁村の実現

- ア 地域の特性に応じた農山漁村の活性化
- イ 多面的機能の持続的な発揮につながる活動の推進

4 プロジェクト

■ 緊急プロジェクト

新型コロナ感染拡大によるダメージ克服と「新しい生活様式」への対応に取り組みます。

■ 重点プロジェクト

基本計画の5つの目標を達成するために、5つの重点プロジェクトを設定し、各種の取り組みを効果的に推進していきます。

緊急プロジェクト

新型コロナウイルス対策

魅せよ愛知の底力、 コロナ禍克服プロジェクト

新型コロナウイルス感染症とそれに伴う経済環境の悪化は、農林漁業者の経営や農産物等の流通、消費に大きな影響を与えました。この状況から速やかに脱却し、今後、同様の不測の事態が発生しても影響を最小限に抑えるための取組を生産・消費の両面から進めるとともに、いわゆる“新しい生活様式”の下での消費習慣の変化を踏まえた新たな流通・消費の仕組み作りなどに取り組みます。

生産面における影響克服と対応力強化

- 栽培品目の転換や経営の多角化
 - ・ 花きにおける消費者が使いやすい出荷方法の検討、新たな需要を喚起する新品種の開発や他品目等への転換
- 労働力の安定的な確保
 - ・ 自動化・省力化のためのスマート農業技術の実証と産地導入の推進
- 危機管理体制の強化
- 林業生産体制の強化
 - ・ 木材の生産流通体制を強化し、非常時においても木材生産を維持
- 漁業生産体制の強化
 - ・ 栽培漁業の生産魚種の増加や新たな養殖業の導入、安定需要が見込めるノリ養殖の施設整備などを推進

消費面における販路の多様化や新規需要の拡大

- 販路の多様化や新規需要の拡大
 - ・ 県産農林水産物の新たな販路開拓を実施
- 新しい生活様式への対応
 - ・ 新しい生活様式に対応した産地直売所づくりへの支援
 - ・ 日常生活に花きを取り込む運動の推進や従来とは異なる消費構造の新規需要の創出
 - ・ 生活空間に木材を取り入れた「木のある快適な暮らし」を普及するなど、新しい生活様式に対応した県産木材の利用を促進

等

農業の生産力強化

技術力×人材の活躍で切り開く
農業生産力向上プロジェクト

全国有数の生産規模を持つ施設園芸の高度化に向けた「あいち型植物工場」の普及や次世代の農業技術である“スマート農業”の開発と現場実装など、技術力による生産性の向上や農産物の高品質生産を一層進めるとともに、それらの先端技術を使いこなすハイレベルな生産者・産地の育成や農業生産力の要である生産基盤の充実強化を図り、新型コロナ等の不測の事態にもしっかりと対応しうる、足腰の強い産地を育成します。

- スマート農業の現場実装
 - ・ 開発から普及までの問題解決型連携によりスマート農業技術の開発と実装を迅速化
- 担い手や産地のレベルアップ
- 農地等基盤の整備と担い手への集積
 - ・ 農地の大区画化や汎用化の推進

等

目標：農業産出額 3,150億円



オートトラクタの実証

林業の生産力強化

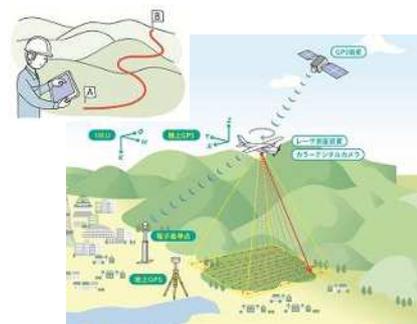
持続可能な社会に向けた
「あいちのスマート林業」実現プロジェクト

本県の充実した森林資源を生かす「伐る・使う→植える→育てる」循環型林業は、SDGs（持続可能な開発目標）の理念を体現し、持続可能な社会の実現に貢献するものです。この循環型林業を推進するため、「スマート林業の推進」と「都市部における木材利用の推進」に取り組みます。

- スマート林業の推進
 - ・ 航空レーザ計測による詳細な森林資源情報や地形情報を一元管理するシステムの開発・活用
 - ・ 林道等の整備の推進や高性能林業機械の計画的で効率的な活用を促進
- 都市部における木材利用の推進
 - ・ 木材の魅力発信及び木材利用の意義の理解促進
 - ・ 飲食店やショッピングセンターなどの民間施設の木造・木質化の推進

等

目標：木材生産量 18.0万m³



スマート林業イメージ

水産業の生産力強化

豊かな海の再生に向けた
漁業生産力強化プロジェクト

漁場の造成、栽培漁業の拡充や資源管理の強化、新しい増養殖技術の開発・導入、漁業生産に必要な栄養塩量の確保など、新型コロナ等の不測の事態にもしっかりと対応しうる漁業生産力の強化を推進します。

- 漁場や増殖場の造成
 - ・干潟・浅場や魚礁漁場及び貝類増殖場の造成などにより、水産資源の回復を推進
- 水産資源の増大や有効利用
 - ・栽培漁業センターにおける新規魚種の生産など栽培漁業の拡充
- 栄養塩量の確保
 - ・下水道放流水のりん増加試験運転の実施、漁業生産に必要な栄養塩量の算定やその確保の推進



貝類増殖場と碎石に付着したアサリ

等

▶ 目標：漁業産出額 410億円

県産農林水産物の需要拡大
と農山漁村の魅力向上

アジア競技大会に向けた
あいちの農林水産業魅力向上プロジェクト

国内外から多くの観光客が来県するアジア最大のスポーツの祭典であるアジア競技大会等の機会を活用し、愛知県産食材等の供給やあいちの花によるおもてなしを行い、また、愛知の魅力ある農山漁村を多くの人に訪れてもらうことで地域の活性化につなげるため、県産農林水産物のPRや農山漁村の魅力向上に取り組めます。

- 県産農林水産物の需要拡大
 - ・トップセールスや各種メディアを活用した情報発信などによる県内外に向けたPR
 - ・日本一の「花の王国あいち」を広くPRし、花きによるおもてなしや花贈り文化の普及を推進
- 農山漁村の魅力の向上
 - ・農業観光ルート等の創出等を通じたインバウンド需要の安定的な確保



トップセールス

▶ 目標：県産農産物等を優先して購入したい県民の割合 25.0%

農山漁村地域の 防災減災対策

安全・安心な暮らしを守る 農山漁村地域防災・減災プロジェクト

全国有数の農業県・日本一の産業県あいちを支える県土の強靱化を進め、安全で安心できる農山漁村の豊かな暮らしを実現するため、ハード・ソフトを適切に組み合わせた防災・減災対策を総合的に推進します。

- 防災・減災機能の向上（耐震化等の推進）
 - ・ 排水機場等の農業水利施設の耐震対策及び機能低下の状況に応じた更新整備を推進
- 森林・農地の多面的機能の維持
 - ・ 間伐等の適切な森林整備を推進
- ソフト対策の充実
 - ・ 被災後に排水機場を早期に稼働させるため、施設管理者の管理体制を強化



ため池の耐震対策

等

▶ 目標：農山村地域の防災・減災面積 5年間で6,500ha

5 基本計画の達成に向けて

■ 基本計画の推進

県は、農林水産業関係団体、県民などと役割を分担し、協働しながら、また市町村との連携を図りつつ、基本計画に掲げた施策を総合的かつ計画的に推進します。

農林水産業関係団体、消費者団体、学識者などで構成する「食と緑の基本計画推進会議」を開催し、計画の進捗確認を行うとともに、必要に応じて計画の見直しを行います。

■ 基本計画の進行管理

基本計画の的確な推進を図るため、具体的な施策や事業の取組状況などをまとめたレポートを毎年度作成し、進行管理を行います。

基本計画に掲げた目標について、毎年度進捗を確認し、評価するとともに、その結果を翌年度以降の事業立案等に反映させていきます。

持続可能な開発目標（SDGs）

SDGsとは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界をめざす国際目標です。

《柱1：生産の柱》 持続的に発展する農林水産業の実現

- (1) 意欲ある人材の確保・育成
- (2) 生産性の高い農林水産業の基盤を作る取組の充実
- (3) 新たな需要を創造し持続可能な農林水産業の実現



《柱2：暮らしの柱》 農林水産の恵みを共有する社会の実現

- (1) 農林水産業を理解し身近に感じる活動の推進
- (2) 災害に強く安全で快適な環境の確保
- (3) 地域住民や関係人口によって支えられる活力ある農山漁村の実現



食と緑の基本計画 2025 ^{にせんにじゅうご} (案)

～食と緑が支える県民の豊かな「あいち」をめざして～

2020年11月

愛知県農業水産局農政部農政課

〒460-8501

名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

電話 052-954-6391 (ダイヤルイン)

Web <https://www.pref.aichi.jp/nousei/>